

# フォレストニュース

植林が地球を救う  
平成24年(2012)9月10日  
No. 57  
発行 高津啓洋

## 夏季セミナー開催 どんぐり拾いも

8月11日、12日と御殿場のセミナーハウスで2日間の夏季セミナーが開催されました。また、セミナー参加者の希望者から場所を浜松町の浜離宮恩賜公園に移して、13日はどんぐり拾いを体験しまし

た。セミナーは35名の参加です。11日は、地球温暖化問題と植樹活動について、高津啓洋代表がアマゾンとパンタナールといった広大な熱帯雨林などが、大規模な商業伐採と違法伐採によって、森林の減少が特に激しくなっています。これらの地域は特に、地球の肺と言われるところです。

また、翌日には裏山散策で、鎮守の森について、また、日本固有の樹木の説明があり、各人が、木の名前と、藪椿、白樫、赤樫、椎、楠（タブ）の木を実際に触りながら学習をしました。

さらに、13日は、快晴の元、高津代表を中心に浜離宮恩賜公園で、どんぐり拾いをしました。



古い神社で高津代表の説明を受ける



どんぐり拾い



成田を元気に出発



子供達に日本からの贈り物

## ボランティア隊 植樹を開始

8月25日朝、成田を出発した、ボランティア隊はサンパウロ経由で、30時間かけてパラグアイのアスンシオンに現地時間8月26日夕方に到着しました。皆元気に、バスに乗って最初のボランティア地・マリア村に2日かけて向かいました。

マリア村では3日間の植樹活動に従事しました。ここは水もなく、雨水を利用するといった、植樹には大変に過酷な地域です。また植樹した、木も動物からの食害を守るために、保護柵の準備をしました。学校周辺と街路樹の植樹が終わり、修了式にはアルトパラグア

イ州の教育長らも駆けつけました。その後は、南部のミンガグアス市での植樹活動です。

## 境界保全林 長野で植樹祭

8月10日、稲葉法事センター敷地内（長野市稲葉）の西側フェンスに沿う30m。主催は信州さがみ典礼とNPO地球の緑を守る会で行われました。作業は付近住民、企業関係者、地球の緑を守る会会員など12名で、300本を植樹しました。

最初、付近住民が葬祭場が建つなどということは容認しがたいということで“建設反対”が起きました。協議の席上、どのような森をつくるのか、地球の緑を守る会がプレゼンテーションを行った結果、葬祭場と住民居住地域の間に、「美観の保持」と「防災の機能」を兼ね備えた境界保全林を形成することで三者が合意しました。植樹祭は、猛暑の中、額に汗し、土に手を触れ、一人平均20本くらいを自分の手で植えたという達成感もあってか、参加者の皆さんそれぞれ満足げな様子でした。



植樹後に保護柵を設置